

VI 報告 「王子動物園リニューアル基本構想（案）」について

「王子動物園リニューアル基本構想（案）」について

1 王子動物園リニューアル基本構想（案）の概要

動物園に課せられた役割と今後の時代の変化を見据え、施設の更新と展示方法に関する方針、種の保存、教育、調査研究の更なる取り組み等、リニューアルの基本となる動物園の理念や長期的な方向性を総括的に示すために作成

2 王子動物園リニューアル基本構想（案）

資料1のとおり

3 今後の予定

令和4年12月 公表

4 参考資料

王子動物園のリニューアルに関する有識者意見について



王子動物園リニューアル基本構想（案）

目次

- | | |
|-----------------------|-----|
| 1. 王子動物園の概要 | P.1 |
| 2. 王子動物園が直面する課題 | P.2 |
| 3. これからの王子動物園に求められる役割 | P.3 |
| 4. 王子動物園のコンセプト・理念 | P.3 |
| 5. 王子動物園が目指すべき方向性 | P.4 |

令和4年 12月
神戸市

1. 王子動物園の概要

王子動物園は、かつて「原田の森」と呼ばれた一帯で戦後復興期に開催された神戸博覧会の跡地に、昭和3年（1928年）に開園した諏訪山動物園を継承する形で昭和26年（1951年）3月に開園して以来70年を超える歴史ある動物園である。

現在は、約130種750点の野生動物を飼育展示しており、国内初となるチンパンジーの人工哺育、キンシコウの自然繁殖、アジアゾウの出産をはじめ、各種希少動物の繁殖や大学や研究機関等と連携した学術的研究に取り組んできた。加えて、「動物科学資料館」を設置し、資料・標本の収集保存や動物に関する教育普及を行ってきた。

神戸市の都心部のすぐ東側に位置し、阪急王子公園駅やJR灘駅に近く、幹線道路沿いに立地しており、空港や新幹線からのアクセスも含め、すぐれた交通利便性を有し、六甲山系の豊かな自然環境と芸術・文化が薫る灘文化軸の一翼を担う都市型動物園である。

市内外の小学校や幼稚園等の身近な環境学習の場として多くの子供たちが利用するとともに、憩いやレジャーの観点からも重要な拠点となっている。



2. 王子動物園が直面する課題

(1) 施設更新の必要性

経年による獣舎等の老朽化に加え、利用者ニーズの多様化、技術の進歩など社会情勢の変化に対応するため、施設更新が必要である。

(2) 種の保存への貢献

地球規模での環境問題に起因して、野生動物の絶滅が進むなど、生物多様性の喪失が深刻化しており、絶滅の恐れのある野生動物の保護を目的にワシントン条約やその他の法律等によって野生動物の取引や捕獲などの規制が進んでいる。このような状況を踏まえて、今後も種の保存に貢献していくことを目指すための動物収集計画（コレクションプラン）や繁殖に必要な施設の整備、生物多様性*保全の重要性に関する調査研究や教育などの更なる取り組みが求められている。

※生物多様性：地球上の様々な生物がお互いにつながり合いながら豊かな生態系が保たれていること

(3) 動物福祉の意識の高まり

世界的な動物福祉の意識の高まりにより、公益社団法人日本動物園水族館協会においてもこれらの動向を踏まえた「飼育ガイドライン」を順次策定するなど動物福祉向上の取り組みが進められている。このような状況を踏まえ、動物福祉の向上に十分対応できるハード・ソフト両面での環境を整備することが重要な課題となっている。

(4) 展示方法の多様化への対応

動物本来の行動を引き出す行動展示や、生息環境をできる限り再現した展示方法を導入した動物園も増加しているが、王子動物園は、開園当初より系統分類学的展示配列を主体とした展示方法である。施設の老朽化が進んでいる状況も踏まえ、多様な展示方法の導入を検討する必要がある。



【開園当初からの獣舎】



【系統分類学的展示（円形猛獣舎）】

3. これからの王子動物園に求められる役割

(1) 公立動物園としての役割

- 種の保存：希少な野生動物の絶滅回避とその生息環境等の保全、生物多様性保全のための持続可能な動物収集計画（コレクションプラン）
- 調査研究：大学等研究機関との連携強化、得られた知見の社会還元
- 教 育：動物本来の魅力や生物多様性の重要性などを伝えられる展示方法やガイドプログラムの充実、飼育・調査研究に関わる人材育成

(2) 立地特性を生かした都市型動物園としての役割

- 便利で身近に楽しめ、観覧や滞在がしやすい施設整備
- 周囲と調和した景観、たたずまい
- 近接する六甲の自然を活かした環境教育の展開
- 動物園にふさわしいレクリエーション機能の充実

(3) 社会潮流への対応

- 動物福祉の向上
- 誰もが安全、快適に利用できるユニバーサルデザインへの対応
- 持続可能な開発目標（SDGs[※]）への貢献
- 情報通信技術（ICT）やデジタル技術（DX）など新技術の活用

※SDGs：持続可能な社会の実現を目指すために設けられた世界共通の目標

4. 王子動物園のコンセプト・理念

王子動物園は、神戸市民とともに70年以上の歴史を積み重ね、親しまれてきた。今後この「原田の森」と呼ばれた地において、市街地にありながら六甲山系に近い立地特性や景観を最大限に生かしつつ、動物福祉の向上を図ることはもちろん、動物の飼育に注力すると共にその取り組みの成果を生息地の野生動物の保護や生息環境の保全につなげるなど、今後より一層その役割を果たしていく必要がある。

自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を来園者が1日中、ゆっくりと観察し、遊び、憩い、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物園を目指し、コンセプトを以下のように定める。

六甲の豊かな緑を感じ
動物と人がいきいきと過ごしながら、
世界につながる動物園

5. 王子動物園が目指すべき方向性

王子動物園のリニューアルでは、動物園ゾーンとして現在と同程度の敷地面積を確保することとしており、そのゾーンを十分に活用することで次の方向性の具現化を図る。

(1) 種の保存など、生物多様性保全に貢献する動物園

『まもる』

① “動物のいのちをつなぐ”（域内・域外保全*の推進）

※域内保全：野生動物の本来の生息地の環境保全等を通じて絶滅を防ぐ活動

※域外保全：野生下での維持が困難な希少種を生息域外で飼育繁殖していく活動

- 海外及び神戸地域をはじめとした国内の希少動物の保全など、持続可能な飼育展示等に取り組むための動物収集計画（コレクションプラン）の策定
- 種の保存を進める動物種には、円滑に繁殖を進めることができるスペース、検疫施設を整備するなど、海外及び国内・地域の野生動物の保全につながる繁殖を推進



【希少動物の繁殖】



【獣医療設備の充実】

- 獣医療設備の充実や大学等研究機関との連携強化により、健康管理や種の保存にかかる技術の向上



【生息調査イメージ】

- 希少種の生息地で行われている保全活動（野生復帰事業や生息調査、教育活動等）への関与により域内保全に貢献

※王子動物園における動物収集計画（コレクションプラン）の考え方

○動物収集の方針

- ・（公社）日本動物園水族館協会の策定計画（JCP）に準拠
- ・域外保全への貢献、教育的価値、学術的価値、展示効果等を考慮
- ・今後、導入の見込みが困難な動物は繁殖を行わない
- ・近隣施設との棲み分けも考慮

○繁殖方針

- ・最優先種：種の保存の貢献のため、積極的に繁殖を推進
- ・優先種：繁殖を推進（JCPに準拠した計画的な繁殖）
- ・維持種：展示施設内で適正数を維持するための繁殖
- ・調整種：繁殖を行わず譲渡を促進

○新規導入

- ・域外保全に貢献できる海外希少動物種、国内希少動物種（市内・県内）を新たに導入し、六甲山系から世界につながる生物多様性の保全教育を推進

5. 王子動物園が目指すべき方向性

(1) 種の保存など、生物多様性保全に貢献する動物園

② “動物がいいききと暮らす”（動物福祉の向上）

- 生息環境の再現等により動物本来の行動を引き出し、生物多様性の重要性が伝わる展示方法の導入



【動物本来の行動を引き出す展示方法】



- 飼育動物が快適に暮らせるための環境エンリッチメント*や安全で健康に暮らすためのハズバンドリートレーニング*に取り組みやすい獣舎設備の充実



【ハズバンドリートレーニング*の充実】

※動物にストレスがかからない健康管理の取り組み



【環境エンリッチメント*の充実】

※野生に近い採餌状況などの再現により、本来の行動や種類を増やし、動物たちの暮らしを豊かなものにする試み

- 1日でもっとも過ごす時間が長い寝室で、快適に暮らせる獣舎環境の充実
- 高齢動物の療養など、個別管理を要する獣舎設備の整備



【快適に暮らせる獣舎環境の充実】

(2) 動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進

- 生きた動物の前での解説により、飼育動物の命の大切さや生物多様性保全の関心を引き出すガイドプログラムの充実
- 自然環境との関わりを学習する機会を推進するため、地域の自然保護団体等と連携したイベント等の実施



【動物ガイドの充実】



【動物と自然環境との関わりでの学習機会を推進】
ホッキョクグマ舎の冰雪生成装置でできた雪山を見学

- 学校教育に向けた動物に関する講演や教育素材等の提供



【教育事業の推進】



【骨標本等の活用】

- 動物科学資料館を教育の拠点として、剥製や骨格標本を活用するとともにVRやARなどのデジタル技術の活用等により、動物の生態への理解を深化



【身近な希少動物：ニホンリス】

六甲山系や市内の身近な希少動物の展示や紹介などを通じ、市の生物多様性保全の取り組みを推進

(3) 希少動物の保全や動物福祉の向上に資する調査・研究の推進 『ふかめる』

① “次の時代につなげる” (研究分野の拡大)

- 調査研究を推進するための環境整備をはじめ、大学等研究機関等との連携により、得られた知見の研究発表を推進できる体制の整備
- 動物福祉に関する研究を推進し、飼育環境の改善や教育事業へのフィードバック



【行動調査】



【性ホルモン検査】



【調査研究】

② “次の世代を育てる” (人材育成への貢献)

- 動物園の職員の専門性の向上を図るための人材育成システムの構築
- 専門性の向上を目指す大学等研究機関と連携した調査・研究の場とすることで、動物の知性や生態の理解を深め、将来にわたる動物の飼育・繁殖・福祉の発展への貢献

- 教育機関等と連携した幅広い普及啓発及び研究成果の情報発信



【学術研究の発表】

(4) 誰もが安全に安心して楽しめる憩いの場の創出

- 六甲山系の山並みや「原田の森」であった歴史特性を生かした緑豊かな景観づくりにより、自然を満喫できる景観の創出



【緑豊かな景観】



【夜桜通り抜け】

- 現在の遊園地施設への愛着にも配慮しながら、子供たちが動物や自然をより身近に感じることができる安全で安心な遊び場の整備



【ソウの滑り台】



【自然を身近に感じる遊び場のイメージ】

- 灘文化軸の拠点にふさわしい、園内外から利用できる飲食・物販等のサービス機能の配置、見て楽しめるアート作品の活用



【動物アート作品の活用】



【園内外から利用できる飲食機能(京都市動物園提供)】

- ユニバーサルデザインに配慮した施設整備、快適な観覧に資する休憩施設の適切な配置



【快適な休憩施設の設置：クールベンチ】

- デジタルサイネージなどによるフレキシブルな案内設備や音声案内の設置

5. 王子動物園が目指すべき方向性

(5) 市民・地域・来園者と共に歩み行動する動物園

- サービス向上や集客向上等への取り組みのため、SNSや各種メディア等による情報発信や、地域団体や企業とのコラボレーションによるイベントやグッズの開発等による広報・PRの強化など、民間との一層の連携協力を推進



【企業から贈呈されたジオラマ作品の展示】



【民間企業等とのコラボレーションによる企画】

- 市民や関連団体・企業等による動物サポーター制度の一層の利用拡大、クラウドファンディング等の積極的活用により、ファンと共に動物園を守り育てる仕組みを強化



【クラウドファンディングの取り組み】

- 灘文化軸を構成する様々な美術館等や地域の学校、商店街等との協働により、回遊性やにぎわいを高め、まち全体の活性化に貢献する取り組みの推進



【にぎわいを高めるイベント】

■王子動物園が目指すべき方向性（概念図）

六甲の豊かな緑を感じ
動物と人がいきいきと過ごしながら、
世界につながる動物園

『まもる』

1. 種の保存など、生物多様性保全に
貢献する動物園



【域内・域外保全の推進】

『まなぶ』

2. 動物を通して自然や環境への扉を
ひらく教育の推進



【動物科学資料館のさらなる活用】

『ふかめる』

3. 希少動物の保全や動物福祉の向上に
資する調査・研究の推進



【調査・研究の推進】

『たのしむ』

4. 誰もが安全に安心して楽しめる
憩いの場の創出



【自然を満喫できる景観の創出】

『はぐくむ』

5. 市民・地域・来園者と
共に歩み行動する動物園



【地域や企業とのコラボレーション】

令和4年11月

王子動物園のリニューアルに関する有識者意見について

1. 概要

王子動物園のリニューアルにあたり、専門的な見地から有識者の意見等をこれまでに数回聴取してきており、この度リニューアルの理念や長期的な方向性を示す「王子動物園リニューアル基本構想」に関して、下記のとおり意見をいただいた。

2. 有識者への意見聴取内容

(1) 動物園を取り巻く環境

- ・ワシントン条約（絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）下における動物のコレクション
- ・動物福祉に配慮した展示等

(2) 公立動物園としての果たすべき役割

- ・種の保存
- ・調査研究
- ・教育
- ・コレクションプラン（動物収集計画）

(3) 都市型動物園としての果たすべき役割

- ・展示方法（動物福祉に配慮、レクリエーション機能の充実 等）
- ・施設の配置計画（観覧の動線や園地デザイン 等）

3. 有識者からの意見の概要

○赤澤 宏樹 委員（兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授）

- ・利用者の動線とともに居場所を考えて整備することが大事。3～4時間滞在してもらうなら、滞在できる場所を作る必要がある。
- ・敷地の高低差を利用して、森の中にあるような空間を提供することができる。
- ・生態系や希少種の保護などをどのように伝えていくのか、記述が必要。
- ・教育機能について利用者の年代等に応じた実施方法を検討していかなければならない。
- ・NPOや市民と連携することで、更に高い目標ができ、盛り上がっていく。

○坂本 英房 委員（京都市動物園長）

- ・高齢個体の療養などができる予備のスペースが重要である。
- ・標本などを活用して、分類学、自然史科学に造形を深める場に行うことができる。近隣の大学等との連携を深め、実習先として子供達にガイドなど行うのもいい。
- ・研究・教育のマンパワーの確保が必要。
- ・希少動物の飼育にはワシントン条約が制約ではあるが、海外との連携においては衛生条件が問題となることが多い。

○佐渡友 陽一 委員（帝京科学大学アニマルサイエンス学科講師）

- ・優先して保全していく動物種においては、繁殖に必要なスペースが必要である。
- ・サポーターとの関係づくりを向上させていくことも重要である。
- ・動物園に入らなくてもレストランを利用できる仕組み等を検討してはどうか。
- ・動物園の近くにある学校園や美術館などの文化施設との連携。

○原 久美子 委員

（前横浜市立金沢動物園園長・前日本動物園水族館協会教育普及委員会委員長）

- ・動物福祉、環境エンリッチメントに配慮した施設作りを目指すべき。
- ・展示時間よりも長く滞在する収容後の住環境の充実にも配慮が必要。
- ・展示しない個体や高齢個体の療養等に活用できる予備スペースの確保が必要。
- ・神戸市の生物多様性地域戦略を学べる拠点づくりも重要。
- ・域外保全に加え、域内保全まで取り組む動物園を目指すべき。

○坂東 元 委員（旭川市旭山動物園長）

- ・繁殖等のために、非公開の放飼場や寝室の数にも余裕を持たせることが必要である。
- ・地元で生息する生物を取り上げるなど、身近な動物を題材にすれば子どもたちも理解しやすい。
- ・王子動物園ならではの特徴を。
- ・課題等の解決について、具体的な方向性、取り組みを記載してはどうか。

○松本 朱実 委員（社会構想大学院大学 特任教授）

- ・動物科学資料館は、飼育していた動物を剥製や骨標本として教育に活用している博物館機能があるため、しっかり活用できるようにすべき。
- ・地域の野生保護団体との連携について、ネットワークを構築できるといい。
- ・自然保護団体のグッズや教材の販売や売上の寄付など、自然保護に関われることが目に見えるものが望ましい。

- ・美術館との連携もできるといい（例：上野、京都）。それぞれの利用者に相互に来てもらえる。動物の実物を動物園で見て、それを人が捉えたものを美術館で見るなどの取り組みもできる。
- ・王子の特徴として、身近であり、市民に愛されているというところがある。市民との協働、市民目線の動物園、市民とともに作っていく動物園を目指すべき。

4. 有識者意見名簿（敬称略・五十音順）

委員	分野	現職
赤澤 宏樹	造園学・ランドスケープデザイン	兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授
坂本 英房	動物園関係者	京都市動物園長
佐渡友 陽一	動物園学	帝京科学大学アニマルサイエンス学科講師
原 久美子 （～R4.3）	動物園関係者	前横浜市立金沢動物園園長 前日本動物園水族館協会教育普及委員会委員長
坂東 元	動物園関係者	旭川市旭山動物園長
松本 朱実	教育学・学芸員	社会構想大学院大学 特任教授